

2014年5月27日 第13回 上田市公共交通活性化協議会 第13回上田市地域公共交通会議

会長あいさつ 上田市都市建設部部長 清水会長 (以下 清水会長)

変更委員紹介 事務局 上田市都市建設部地域交通政策課 藤澤課長 (以下 藤澤課長)

資料確認 藤澤課長

## 議題

(1) 上田市公共交通活性化協議会協議事項について

ア 平成25年度決算報告について

事務局 資料1 資料説明

事務局 会計監査報告(監事欠席のため)

質疑等 無し

承認

イ 平成26年度予算(案)について

事務局 資料2 資料説明

質疑等 無し

承認

ウ 運賃低減バス実証運行について(※報告事項)

事務局 資料3 資料説明

上田市運賃低減バス事業報告(第12回協議会以降)(4ページ)、写真(5ページ)

…前回協議会(H25年5月)以降、今回協議会までの、運賃低減バスに関する事業報告  
運賃低減バス 輸送人員実績(6ページ)

…実証運行後6ヶ月(H25年10月~H26年3月)の輸送人員の実績報告

実証運行前6ヶ月(H24.10月~H25年9月)と比べ、対象路線全体で5.2%増  
大雪で運休があったH25年2月を除いた5ヶ月の比較では、9.4%増であった。

## 今後予定するダイヤ等の変更について（7 ページ）

### 清水会長

運賃低減バスの件については、上田市として公共交通、特にバスの関係として将来に向けて残しているという考えのもとに始めたものであり、実証運行ということで期間限定である。（輸送人員の伸びは）事務方から見れば想定よりももう少し（伸びて欲しい）という実感であり、更なる乗客の増を図っていかねばということから、このようなこと（ダイヤ等の変更）を実施していく。特にダイヤの変更では、昨年（10 月から）上田バスが（上田駅発）真田方面のバスについて（運賃低減バスの）実証運行をするにあたり最終バス（午後 10 時発）を運行（増便）して好評であったことから、利用率の高い鹿教湯線・青木線についても千曲バスに考えていただき、午後 9 時台（上田駅発）のバスを 10 月から新たに運行をということで実施したいというものである。

### 質疑等

上田市自治会連合会（真田地域代表）堀内委員（以下 堀内委員）

通勤・通学を含め、時間遅くまで（バスの）便があり、非常に喜んでいる。クラブ活動をやっている学生も喜んでいるし、親も迎えに行かなくてよくなり、大変ありがたいとっておられている。

上田市自治会連合会（丸子地域代表）田村委員（以下 田村委員）

通勤・通学のときはたくさん利用があるが、日中の利用客が非常に少ないような気がする。高齢者の方が街まで気軽に（出かけられるよう）路線を利用できる、もっと増発等を考えていただければありがたい。

信州大学工学部特任教授 小山副会長（以下、小山副会長）

千曲バスの室賀線で、輸送人員の大きな増加が見られるが（事業者としてどのように考えているか）。

千曲バス(株)営業部 三浦委員（以下、三浦委員）

室賀線については、（上田市）地域交通政策課と共に路線（沿線地域）に入って啓発を行った。その効果があったかどうかは分からないが、定期券利用者（主に学生）が昨年 10 月から増えたことが、室賀線については大きく伸びた原因である。

### 小山副委員長

上田市がこういうこと（運賃低減バス）をやろうと言った時に、タクシー業界は、かなりタクシー利用客が減り痛手になるという点を言っていたと思うが、実際に 6 ヶ月間やってみていかがであるか。

一般社団法人 長野県タクシー協会 柳澤協会長代理 飯島副会長（以下、飯島委員代理）

この 6 ヶ月の間にタクシー特措法が改正となり、この地域は準特定地域となった。それにより適正車両以下となるよう（タクシー車両を）22.5 パーセント減車した。よって 1 台当たりの生産性は上がってくると期待を持っていたが、（その後の）輸送人員は減っている。（これまでの）94%位、100 に到達して

いない。運賃低減バスにより輸送人員が減少したバス路線と同じような減少はタクシーにも見られる。

#### 清水会長

昨年もここで議論があったが、タクシーの皆様には（大河ドラマ）「真田丸」の決定ということもあり、当然（それにより）訪れる人も増えるということもある。観光的な面をしっかりとやっていければということで、県の支援・市の支援を受けながら、再来年の放映に向けて、維持以上のものを観光タクシーへの支援を一丸となってやっていければと考えている。

合わせて、しなの鉄道では7月に観光列車「ろくもん」が軽井沢・長野間を運行する予定であるが、上田市としても、そちらの活性化についても一緒にやっていければと考えている。

（運賃低減バスについては）今年もダイヤの変更をしながら、しっかり運行状況を見極めて、昨年も申し上げたが、こういったことをやっても乗らないという状況になれば、地域の皆様（バスを）必要としないと考えているということで、廃止や減便も踏まえた中でやっているものであり、その覚悟で取り組んでいるということをご理解いただきたい。

#### 承認

#### エ 平成26年度地域間幹線系統確保維持計画について

事務局 資料4 資料説明（8ページ）

表中の輸送人員の年度は「行政年度（4月から翌年3月）」である。

上田バス 舟見常務（以下 上田バス舟見委員） 資料説明（9～16ページ）

千曲バス 営業部 三浦次長（以下 千曲バス三浦委員） 資料説明（17～26ページ）

#### 質疑等

長野県企画振興部交通政策課 堀田課長代理 竹内主事（以下 竹内委員代理）

昨年の資料と比べる中で、上田バスで約500万円、千曲バスで約700万円、来年度の補助が増えることになるが、県の財政が厳しい中で言わせていただくと、運賃低減等いろいろな施策をやっていただいて利用者を増やそうとしているのは分かるが、どんどん赤字が増えるなかで、本当に必要な路線なのかどうかを、協議会等のなかでしっかりと協議いただきたい。資料を見ると収益改善施策は毎年同じようなことで、毎年赤字が増えるということであるが、もう少し違う手を打たなければいけないのではないかと思う。

#### 舟見委員

千曲バスも同じだと思うが、従業員のマナー・待遇向上に努めている。また、車内に「ご意見箱」を置いて、お客様の意見を聞いている。意外だったのは、寄せられるものは苦情ばかりでなく御礼などもあり、接客については良くなってきた感じがある。（収益が改善されなくて）一番困るのは従業員である。

（この件については）このような場で真剣に検討していただきたい。

### 三浦委員

乗務員の接客については、苦情等をいただく。それ（苦情改善）については昨年10月以降、特に力を入れている。その他にお客様への案内等もできるようにと、上田の関係車両にはインカムを取り付けた。県の指摘の通り、赤字が増えているが、利用啓発等により解消できるよう力を入れていきたい。

### 小山副委員長

県からの指摘は分かりやすいと思うが、短期的に赤字を解消するにはどうしたらいいかということと、保険として公共交通機関を持つということは、かなり違った角度で見なければいけないと思う。県では、短期的にみるのではなく、以前私が提案したロードプライシング（特定区域への進入又は特定の道路の通行等に対し、課金等を行うことによる交通量の抑制・・・事務局による注釈）による交通量の抑制、県は勇気をもって出て、道路を良くすればいいだけでなく、これによって弊害の出る公共弱者をどう守るかということも考えていく必要がある。端的に赤字だから（公共交通は）必要ないだろうではなく、そういう考え方で上に立つ方を持ってもらいたい。

### 上田市自治会連合会（上田地域代表）水野委員（以下 水野委員）

県からそのようなお話がありましたけれども、先ほどの小山先生（委員）のおっしゃる観点から、このような会議をもって、このように（公共交通の運行を）しているのであるから、もう少し県としても建設的な意見をお願いしたい。

### 田村委員

今回初めて出席させていただいた。自分たちの地区もそうだが、一人暮らし・高齢化ということで、80歳を過ぎれば運転免許も必然的に返していかなければいけないということもあるし、65歳を過ぎれば医者にかかるということも非常に多くなるということもある。基本的には基幹路線は残していかなないとダメになると思って話をお聞きしていた。何とか活性化含めた中で、収支が取れるような施策を考えて、赤字でも何とかしてやっていかなければならないと思って発言させていただいた。

### 近藤委員

（武石）地域内においてはデマンドバスがあるが、市街地にはどうしてもバスを利用しない。輸送実績を見て（思ったより伸びていて）驚いた。（小山）先生の言うとおりだと思うが、もう少し住民が積極的になることが大切だと思う。

### 竹内委員代理

バス事業者の観点からだと、燃料費、昨年からリッターあたり10円以上の値上げであり、これだけの距離数を走っているのでもう努力しても調整できない。人件費の次に大きいものだからその辺もお考えいただきたい。また大型二種免許を持つ若い方が少ないというのがこの業界での悩みの中で、乗務員の優遇、教育にお金がかかる。また、高速バス・貸切バスへの安全装置の負担等、そういうものも踏まえて経営を考えていくことをお願いしたい。

三浦委員

上田バス同様、路線コストは長野県の平均を基に目標数値としている。

飯島委員代理

大事なことは、バスの運賃低減は 1.5 倍の目標を達成するということ。6 か月の実績から達成可能か。

清水会長

現在そこまで言っていないが、せめて市の補てんを減らしていくような形で、できるだけ 1.5 倍に近づけるようにはしたい。まだ半年であるので、ダイヤ改正、さらなる啓発、各戸配布（啓発）を努力しながら進めていきたい。市民の皆様が乗っていただくことが大事であるので、委員の方は周りの方に一回でも多く乗ってもらうよう（バス利用を）勧めてもらいたい。

承認

オ 平成 26 年度地域間幹線系統確保維持計画について平成 25 年度上田市生活交通ネットワーク計画（地域内フィーダー系統確保維持計画）について

事務局 資料 5 資料説明

上田バス舟見委員 資料 5 資料説明

千曲バス三浦委員 資料 5 資料説明

鈴木委員

バス事業者の努力は理解できた。私たちがやらなければいけないことは、地域の方には何の時でもバス利用の話をしていくこと。たとえば、東京に行くときには（バスの遅れも計算して）少し早めにいって、上田駅で少し待って行きましようとかという話をしている。また、先ほどの話で青木村でも低減バスが始まるとのことだが、そうなればもっと乗ると思う。また、（青木線の）21 時台の増便も学生等にもいいことですので、また宣伝させてもらう。

承認

カ 県道川西線のバス停留所新設について

事務局 資料 6 概要説明

千曲バス三浦委員 資料 6 資料説明

承認

キ オレンジバスの一部ルート変更及びバス停留所の新設について

事務局 資料7 概要説明

上田バス舟見委員 資料7 資料説明

※その他当該ルートにある一部バス停留所の名称変更について検討中  
承認

ク 豊殿地区循環バス無料月間の実施について

杉崎委員 資料8 資料説明

承認

ケ 夏休みキッズパスについて

事務局 資料9 資料説明

承認

コ その他

竹内委員代理

説明の前に、資料2の中で、低減バス実施についてアンケート調査の結果なども提示していただければと思う。交通政策をしていく上で参考になると思うので。

竹内委員代理 資料「地域交通システム再構築ハンドブック」説明

小山副会長

ハンドブック 41 ページの「職場MM」について、取り組んでいる企業に対しては、(補助金等) 県も厚く支援するなど取り組んで欲しい。

清水会長

上田市でも、松本市ほどではないが昨年10月から職員の公共交通利用を呼びかけて実施している。

以上